

令和3年度第1回香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会議概要

1 概要

日 時：令和4年3月15日（火）午後3時00分～午後4時50分

場 所：香美市中央公民館2階会議室

出席者：香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員 11名

企画財政課長、防災対策課長、定住推進課長、農林課長、商工観光課長、教育振興課学校教育班長、企画財政課員2名

欠席者：委員4名 市役所2課

2 市長あいさつ

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い社会情勢は変化しており、ウィズコロナの対策として何ができるか、本市としてもできることをやっていかないといけない。また、南海トラフ地震や少子高齢化・人口減少問題への対策強化とともに、自治体DXなどのデジタル化の推進も求められています。

本市の産業分野においては、この5年間、県と連携しながら、産業振興施策に取り組んできました。商工では、鍛冶屋創生塾の開校、観光では龍河洞、宿泊施設シックスダイアリーの整備、防災では、消防庁舎・分署の建設、防災無線の整備、その他建物の耐震化に取り組んできました。教育分野では、よってたかって生涯学習など、地域で人を育てる点に重点を置き進めており、去年は、香北地域の小学校がバカロレア認定校になっております。

審議会においては、限られた時間の中で意見をいただくことになり、大変ご負担をおかけすることになりますが、皆様は組織の長や、現場を熟知している立場の方々でございますので、貴重なご意見、ご鞭撻を賜りたいと考えておりますので、どうかよろしく願います

3 自己紹介

4 会長・副会長選任

事務局案：会長 清原委員、副会長 奥村委員 了承を得る。

3 議題

(1) 本市における人口動態・地域経済の状況について

事務局より「本市における人口動態・地域経済の状況について（資料1）」について説明

・最近の香南市の状況を知りたい。香美市から香南市へ人が流れているということ

があるのではないだろうか。

→ 香南市の人口について、正確な数字を今持ち合わせていないが、転入超過においては、香美市と香南市が交互に1位と2位をとっているような状況です。2018年は香南市が2位、2019年は香美市が2位、2020年は香南市が2位、2021年は香美市が2位となっています。香南市の人口は、10年くらい前は増えていたが、今は減少しているようです。

→ 香南市は、ひかり団地とか青少年センターのところとか、分譲の団地がたくさんできたため、増えているのではないかと思います。ただ、津波の件とかで香南市から香美市への転入も増えています。香美市も結構人気があつて、ここ数年は県外からの移住より、高知市・南国市・香南市からの移住が多いです。あけぼの街道沿い等、年間100件くらい、香美市に家が建っていると不動産屋からも聞いています。

・合計特殊出生率について、どのように捉えているか知りたい。2019年に落ち込んで、2020年に上がったことに対して、何らかの要因でこのようになったのか等を教えてもらいたい。

→ 香美市は比較的小さい市のため、出生数が上がるとすぐに率が上がります。5年間の推移とかで数字を見る方がいいのかもしれないが、それでは計画などでは分かりにくいので単年度であげているため、変化が大きい資料になっています。

・経済活動について、林業の数字が低い、こんなものなのか。素材生産量は年間何立米くらいなのか。嶺北だと、この辺りの生産額がもっと大きかったように思うが。

→ 立米等は把握できていないが(※後日回答する)、地域としては農業の多い地域なので、このような数字になっているかと思います。

単位が抜かっているが、百万円単位です。

・R3転入903人の旧町村単位の内訳と、だいたいどういう要因で香美市に人が来ているのか知りたい。

→ 903人の内訳は、今は調べていませんが、主に山田が多い感じです。あと香北、物部の順にはなると思います。今日の新聞にも「香美市の課題」ということで、物部の人口減が深刻なことになっているとありました。この点については、「定住」の方でも力を入れていきたいと思っています。

転入の要因としては、自然が豊富ということ、また最近、大宮小学校のバカロレア教育への問い合わせがあります。あとは、保育(幼稚)・小学・中学・高校・大学まですべてがあり、子育てし易い・教育環境に恵まれているから、という人もいます。あとは、あけぼの街道が開通して、高知市への通勤通学がしやすいと

いうことと、津波が来ない・地盤が固いことなどが要因になっているのではないかと考えております。

・いなかみへの問い合わせとしては、一番多いのは関東圏から、つづいて関西圏、その他それぞればらばらにということになります。都会から香美市へ移住したいという方の中で、香美市のどこへ移住したいかを聞くと、やはり真ん中くらいの香北町に一番人気があります。「ほどよい自然」と「ほどよい、町からの距離感」それからバカローレ教育に感心を持たれて、子育て世帯から問い合わせをたくさんいただいています。「移住」という視点で見れば、山田より香北に住みたい方が多いですが、現状としては、問い合わせに対して空き家が足りていないので、そこが増えれば香北町はまだまだ人口が増える可能性があると思います。もっと言えば課題は物部ということになるかと思いますが、物部もぜんぜん問い合わせがないというわけではないので、状態の良いすぐに住める家とか賃貸物件とかが出れば、移住希望の方はおられるので、打ち出し方次第かな、ということになります。

・合計特殊出生率については、行政としても分析していただいて、どういう理屈で数字が跳ね上がったか、どういう要因かが分かったら、そこに注力していくことができると思います。ファミリーサポートセンターや子育てに優しいまちづくりを香美市は推進していますので、よろしく申し上げます。

・人口の動態ですが、あけぼの街道の開通とか東日本大震災が起こったことによる津波に対しての意識が高まったことが影響して、かなり好調な人口動態を示してきていたのがここ5年くらいだと把握していますが、続いても5年か10年くらいだろうと思われていて、地価についても微増を続けていたが、若干減少に転じてきています。転入超過に関してもこれから悪化していくという見方は織り込まれているのでしょうか。津波ショックなどはある程度需要を満たしてしまえば、これ以上伸びないと思えますが、そのあたりはどうでしょうか。

→ 香美市は2016年から6年間、転入超過できています。今後、山田バイパスが開通すれば香北の利便性が高まります。先日のまち・ひと・しごと創生・移住定住推進本部会でも、香北は今人気がありますので、分譲とか住宅を確保できれば、人口増になっていくのではないかとの意見が出ておりました。あと物部についても、かつては移住がありませんでしたが、ここ数年2組とか、今年は4組くらい移住がありますし、今後若い夫婦が家を建てる予定もあります。徐々に物部への移住が増えているところですので、引き続き力を入れていこうということになります。山田は市街化区域にまだ家が建っておりますし、図書館もできますし、また若い世代には人気が出てくるのではないかと考えております。

・ここ数年の好成績は、香美市にとっては好条件が重なって、市場原理だけで好状態を維持してきたことがみてとれますので、今後 5 年間この状態を維持していくには、民間と協働してある程度、勝負にでないで維持はできないのではと個人的には思っています。具体的な戦略は、すぐには思いつかないのですが、何かありましたら協力していきたいと思います。

→ 人口推計につきましては、今後見直しの時期が来ましたら、委員の方にも協力をいただきながら、数値設定を見直していきたいと思います。インフラがたまたま好影響を与えたというのは恐らく事実であると思ひまして、地価の下落、流動性の低下については危惧をしているところでもありますので、不動産関係者等とアイデアを出し合って対策を考えていきたいと思ひます。

人口ビジョンは平成 27 年の数字をもとに推計を出しています。社人研は毎年推計を見直していますので、第 3 期の総合戦略策定の際には、その数値をもとに検討していくことを考えております。

・転入・転出の件ですが、年齢構成はどうなっているか。若年層の転出が多いと危ないと思ひていますが。

→ 転入は一桁代と 30 代が多いので、子育て世帯が多いと考えています。10 代の転入と 20 代の転出が多いですが、これは高知工科大学の関係で、その人数がちょうど入れ替わります。

→ 移住者の進捗状況としましては、今年 27 組 66 人の移住があり、年齢構成は 20 代から 30 代が 14 組、40 代から 50 代が 9 組、60 代から 70 代が 4 組ということで、家族構成も子育て世帯が 14 組ということで圧倒的に多いです。移住先は土佐山田町が 16 組、香北町が 7 組、物部町が 4 組というふうな形にはなっております。若い方が香美市に移住しているということになっています。

・今現在香美市に住んでいる高校生がどれだけ出て行っているかが気になる。

(※分かる範囲で調査して後日回答する。)

・コロナ禍での地方への移住やテレワークへの関心の高まりで、国は地方への人の動きを作っていきたいと考えている。

国のまち・ひと・しごと創生基本方針 2021 では、デジタル・ヒューマン・グリーンという新たな 3 つの視点が示されており、その中のヒューマンで、子どもと共に移住してくる人に対して支援をしていこうとなっている。具体的な事業の情報をまだつかめていないが、確か県議会で誰かがその件について質問していたように思ひます。まだ具体的な施策が県から下りてきていないようだが、そういった情報が入って来た時には、是非、香美市でも取り組んで欲しいと思ひます。

→ 補助金の話しがありましたが、「結婚支援応援事業」という、県と一緒にやって

いる補助金がありまして、住宅を借りたりする費用に対して 30 万の補助金ができます。結構人気があり、7 件くらい今年も出ています。高知市や県外からの方も多いので、移住につながっているのではないかと考えております。

・転入される方について、子育て環境が素晴らしいという話がありましたが、親の方々の職は、どういった職に就かれているのか、あるいは、拠点が香美市でほとんどは高知市等に通っておられるとか、そのあたりのデータがあると教えて頂きたい。その点での施策を重点的に行うとより魅力が増すと思いますが。

→ 世帯主の職業は、企業等への就職が 16 組。不明の方もいますが、物部の森林組合とか介護職とか造船業、建設業、工科大学の先生、運送業、塗装業、鍛冶屋の方も一人、あと農業、市役所の職員という方もいます。造船業は高知市とかになりますが、だいたい香美市内もしくはこの近辺で働いているということになると思います。

・仕事がないので移住できないという方が多いのでは。

・どちらかというの家がなくて困る方が多くて、仕事はある程度見込みをつけてくる。ここ 1.2 年は、テレワークという方もおられて、東京での仕事をしている方もいるが、だいたい香美市内かもしくは近辺で仕事を見つけて就職するという方が多い。一定数、自分でお店をするとか、起業するという方もいますが、やはり就職する方が多いです。

(2) 香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況等について

事務局より「香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理シート総括表(資料 2)」、「香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理シート(資料 3)」について説明

(資料 3 については、No.4、No.16、No.39、No.41 について説明)

・進捗管理シートの評価が公表されるのであれば、No.39 のバカロレア教育は C 評価で公表していいものか。大宮小学校の学力調査もおおむねプラスになっている、目標が学力調査になっているが、本来は探求活動などのやっていることで評価が出来た方が良いのでは？目標が学力調査になっているので仕方がないのかもしれないが、これだけプラスになっているのに、「C:遅れている」というのか、最低でも B で良いのではないか。

→ 今年度の目標に対して 60%以上の達成が、B 評価の基準になります。今年度の目標数値には香北中学校の学力調査は入っておらず、大宮小学校の国語・算数が全国平均値より 5P 以上という目標だけでの評価になります。国語も算数も超えていないため、C にならざるをえないことになってしまいます。各年度の目標は年度当初に見直しているので、今回いただいたご意見を担当課に投げかけて来年度分から検討してもらいたいと思います。

・私がこの学校の保護者だったら『これだけやっているのに C なのか』と絶対に思いま

す。目標の立て方の問題かもしれませんが、保護者も含めて学校関係者が、厳しすぎる評価じゃないかと判断すると思いますので、60%で一律に線をひくことも含めて、もう一度教育委員会と検討して欲しいと思います。

・学力調査だけで判断して良いか、KPI の設定の段階から議論のあったところだと思いますが、これ以上はないということで、こういう形になったと記憶はしております。が、確かに内容的にはできていないわけではなくて、学力だけで判定して良いものかどうか、もう一回再検討して欲しいとお返しするということが良いのでしょうか。できますか？

・評価のルールについては仕方がないとしても、検証課題の欄が少しネガティブな感じがするので、評価は C だがこういうところは評価できるとか、もう少しポジティブにされてはどうかと思います。

→ 貴重なご意見ありがとうございます。あくまでも計画 (P) に載っている数値目標に対して、ある意味機械的に行うことが、総合戦略においては必要なこととやってきたところではありますが、しかしながら、事業に取り組んでいる現場もさることながら、影響範囲が保護者の心情にも及ぶことを考えることが必要かと思っておりますので、そういう影響範囲も考慮して、数値目標の設定に関しまして、また原課の教育委員会にも精査してもらうことにしたいと思います。また、検証・課題欄について、少しネガティブとのご意見をいただいたように、取組としてはやっている、やや過大な目標設定であったことが分かるような表現を検討したいと思います。

・大宮小学校も香北中学校も、探求活動を、地域の方と一緒にすごく頑張っているという声がある。そんな中でこの評価がでると、香美市はどうなっているのか、という見方をされると思う。目標設定の見直しと、産業も教育もすべて同じパーセンテージで評価をされることについて、今後検討していかなければいけないのではないかと思います。なかなか教育というのは数字だけでは測れない部分がありますので、是非お願いします。

・教育委員会においては、連絡(調整)をとっていただくようにお願いします。

教育を数値で測ることは難しい。「教育支援センターの充実」の事業も、不登校の出現率を目標に持ってくるのはどうかと実は思っておりました。きめ細かな教育をしても不登校の原因は他にもあるので、不登校の子どもさんや親御さんのことを考えると、この評価基準はどうかと改めて思っています。専門の先生方などもおられると思うので、教育委員会の方で、是非、はかって(検討して)いただくとありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

KPI の設定も含めて、これは次年度での検討になってくるのですが、お気づきの点も含めて、何かありましたら修正や検討をお願いすることもできますので、他には何かないでしょうか。

・No.41 の集落活動センターについて、どの辺がボトルネックになって進んでいないか、

また、そのことを解消するための行政の支援策を、もう少し具体的にお聞きしたい。

また、No.22・No.23 に関して、空き家バンクに掲載されている物件に売買物件が多いが、それなりの引き合いはあるのでしょうか。売買物件を購入するというのはなかなか覚悟がいくことのように思うが、定住施策を進めていく中で、空き家バンクの効果や売買物件の意義はどのようなものなのか、お聞きしたい。

もう一つ、役所がディベロッパーのようになって、県内でも宅地を造成して分譲するところが出てきましたが、香美市ではそのあたりの計画がどうなのか。また、土佐山田町・香北町・物部町の3つの地域がある中で、香美市としては転入超過となっても、物部町の人口減は著しく、放っておくと消滅地区になりかねないと心配している。どう手を打つか、前述した住宅政策と絡んだ施策があるかについてお聞きしたい。

→ 集落活動センターのC評価の件ですが、物部の集落活動センター設立のこととなりますが、既存の美良布と平山の2つの集落活動センターは順調に活動を行っております。物部については、全24地区を網羅した「集落活動センター奥物部」を立ち上げようと、4年間くらい取り組んできていますが、それがなかなか進んでおりません。令和2年度に準備会が発足し、去年、推進協議会を立ち上げるべき方向になっていたのですが、役員選出が難しくなり、推進協議会への移行が進まなくなっています。

物部には既存の団体として、「奥物部を楽しむ会」や「神池なかよし会」等がありますが、今年は、県が中心になって市も一緒に回り、意見を吸い上げながら、準備会でできることから事業計画を立てていこうとしています。今のところ、「観光交流・特産品振興」「健康福祉促進」「移住定住推進」の3本の柱は立っているのですが、細かい事業計画をもう1回立てていくべきということになっています。コロナでなかなか集まる機会が少なかったのですが、4月から、また役員会から開催して、ある程度事業計画が練れたら、準備会を重ねていきたいと皆様と頑張っているところです。やはり、地域住民が主体となって、何をやりたいか考えていただくことにはなりますが、県と市も会などには出席し、あと地域づくり支援員も2名体制で支援しておりますので、今年・来年あたり、協議会の設立に向けて頑張っていきたいと考えております。

空き家バンクの登録に売買物件が多いということですが、貸すよりは売りたい・手放したい・処分したい、という方が多いために売買物件が多くなっております。空き家バンクの専門員や「いなかみ」と一緒に協力しながら、賃貸で貸しておいて、ゆくゆくは買ってもらうようにできないだろうかという家もあります。あと、物部は、以前は全く空き家バンクへの登録がなかったのですが、1件成功事例が出たことにより、他の方も空き家バンクに出してくれるようになり、現在、購入してもらう話しが進んでいるものもあります。

不動産のディベロッパー・分譲宅地の件ですが、そのような計画は今のところ、香美市ではありません。空き家バンク、あと市営住宅が山田・香北・物部にありますので、物部とか市営住宅も空いているので、そういったものを利用させていただこうとし

ています。お試し住宅についても、香北町に5室、物部町にセトル成也が世帯向けで3室ありますので、活用して半年くらいお試しで住んでいただいてから、賃貸や売買となるケースもあります。

物部町を今後どうしていくかという件ですが、全地区を網羅した集落活動センターを設立していこうとしていますので、それが起爆剤になろうかと思ひますし、教育委員会と協力しながら、特認校とか山村留学とか、大栃小学校・大栃中学校をなくさない形で、なるべく子どもの移住とかを促す形で、施策を練っていきたいと考えております。

・物部町の人々の就労について、山田などへ通勤している人が多いですか。それとも地元で働いていますか。

→ 物部町内には、建設業とか森林組合はあるが、やはり山田や香北に通勤している人が多いと思います。また、野市や南国へ通勤している人もいると思います。

・同じ市に働き場があればやはり吸い出されていくと思います。その中で物部に住んでいこうという思いを、どうやって作っていくかが、テーマになってくると思ひていて、集落活動センターを物部に作るなら、そういうものが落とし込まれていると良いと思います。先行事例が盛んにやっている様をみて、『あんなことまではできない』という声をよく聞ききます。集落活動センターは産業振興計画とセットになりやすい面もあって、地域のみんがそんな思いをもっているわけではなかったりしますが、この地域を守っていきたい・ずっと続けていききたいという思いは一致ができたりすると思ひます。それぞれの地域に見合った集落活動センターの作り方を意識しないといけないと思ひていて、そのことがボトルネックになっているかどうかは分からないが、大事なことは、物部町がよくなっていくための集落活動センターということで、支援をするにしてもそのことを意識することが必要だと考えます。

・集落活動センターができ始めた頃と比較して、その性格が変わってきているところがあると思ひます。私も危惧していることがあって、助け合いの仕組みづくりがキーワードだったのに、今、その助け合いの仕組みを維持していくために産業活動を興していかないといけなくなって、セットになってきていて、『何か収益を上げないといけないのですか?』というところにきている。もともとはそうではなかったもので、その辺のことを含めてというのと、もう一つ、集落調査が終わり、県から年度内には報告書が出てくると聞いていますので、その結果も十分に分析して、織り込んでいただいて、物部らしい集落活動センターを構想していただくと、今、少し暗礁に乗り上げているということでしたが、乗り越えていけるかと思ひますので、是非よろしくお願ひいたします。

・資料3 No.4の事業の「木材住宅支援事業」について、市外の工務店で家を建てようという人には、市内の工務店の情報があまり入っていないのではと思ひます。補助金の推

進プラス市内の工務店はこんな家を建てているという情報をセットで伝えてあげたら、(市内の工務店が)もう少し選択肢の土台にのるのでは、と思います。

→ 改善(A)の欄で『無理のない範囲で利用の推進を呼びかける』と書かせていただいておりますが、そういう形で推進していこうと思います。

「令和3年度香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略3月改訂案新旧対照表(資料4)」

「令和4年度版総合戦略への追加(資料5)」等について説明

・香美市奨学金返還支援事業費補助金の詳細を教えてください。

→ 国の制度としてはH27年からあり、令和2年度から特別交付金の対象が10/10に拡充され、今までの条件だと香美市内で就職しないといけなかったが、高知県内であればよくなり、要件が緩和された。昨年議会でも2回ほど質問が出ており、検討した結果、若者の定着のために、予算は6月補正での審議になろうかと思いますが、令和4年度から香美市でも実施していこうと考えております。

大学を卒業して1年間香美市に居住している方で、1年間奨学金を返還した方が対象になります。1カ月最大1万円、1年間で12万円、5年間まで出るので、60万くらい(ひとり最大で)出るようになります。いろいろな奨学金があるとは思いますが、その種類は幅広く対応できると思います。香美市に1年間住んでいれば、UターンでもIターンでもかまいません。

(3) その他

「政策の体系とSDGs関係性」「香美市ICT化推進プロジェクト概要」について資料をもとに説明

・デジタルについては、香美市は一足早く進んでいて、一重に香美市工科大学があるおかげだと思っています。是非続けて頂ければと思います。

本日いただいた意見をもとに、修正できるものは修正し、議会等各方面に報告していきたいと思います。目標設定につきましても意見がございましたので、次回の総合戦略については、精査するようにしたいと思います。